琵琶湖博物館 フィールドレポーター

揭示板

2018年度第 4号 通巻第94号 2019年 3月 17日



モミジの芽吹き

フィールドへ出て発見を共有する

今冬は、琵琶湖博物館から見える雪景色が綺麗でした。その一方で、インフルエンザが猛威を振るいましたが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。今年は1月から今まで、発行物がとても多くなりました。例えば、前回の掲示板からこの掲示板までの間に「オオキンケイギクを調べよう」と「橋の名前を調べましょう」の調査結果を報告しました。県内には、オオキンケイギク調査と同様の調査を行っている市町があります。これらの結果と今回のレポーターの調査結果を比較することで、外来種が県内に広がっていることがよく分かりました。これらのフィールドレポーター調査報告は、来年度の5月18日(土)に開催する交流会で改めて報告いたします。今年度同様、新しい発見を皆さんと共有できる日を楽しみにしております。

さて、通巻94号ではスタッフによる体験記や報告を含め、多彩な内容となっております。「オオキンケイギク調査」については椛島さんが、「橋の名前調査」については井上さんが、現在編集中である「カエデ調査」については中野さんが独自のレポートをしています。交流会の時に皆さんの集めた情報と合わせて、「新発見」を共有できればと思っています。

今年度の掲示板はこれが最後ですが、みなさんフィールドレポーター更新票は提出されたでしょうか。はしかけも同時に入っている方は、はしかけの更新と一緒にフィールドレポーターの更新もよろしくお願い致します。また、今後の予定については、掲示板の最終ページに載せております。フィールドレポーターとして積極的に活動してみたいという方は、第1・3土曜日の午後1時半から博物館交流室で定例会を行っていますので、是非お越し下さい。

フィールドレポーター担当学芸員 大槻 達郎

MA ··· A/XAP ···· • 6 6 C ···· PAXA/ ··· AM

	フィールドへ出て発見を 共有する	大槻達郎	P1	4	孫が見るセカイには	まごのて	P7
1	オオキンケイギク調査 の零れ(こぼれ)話	椛島昭紘	P2	5	棚田の起源はいつから	津田國史	P8
2	「橋の名前を調べましょう」調査 よもやま話	井上修一	P4	6	「モミジ(かえで)」 調査 よもやま話	中野敬二	P10
3	はるは白から始まる	近江心気郎	P6	7	お知らせ	編集局	P12

1 オオキンケイギク調査の零れ(こぼれ)話

FRS 椛島昭紘

2018 年度第 1 回フィールドレポーター調査はオオキンケイギク調査でした。調査結果はフィールドレポーター便り通巻 51 号で報告され、博物館のホームページにアップされています。

この調査に参加して 2018 年4月末から調査している時に見つけたこと、気づいたことをまとめてみました。

1. ある場所のオオキンケイギク定点観察

そこは住宅地の遊歩道の法面で、人がよく散歩している場所です。5月4日、オオキンケイギクが咲き始めました。他の草と混生していて、帯状の幅2~3mで長さ約10mの群落です(写真-1)。その場所を観察していると草刈の頻度が高いことに気づき、その後どのような影響があるのかを冬までの約7か月間、花の様子を観察してみました。結果は表-1です。

観察開始は5月4日、花が咲き始めました。そして5月中旬に草刈されました。約2週間後に観察すると花が咲き始めました。ただし花数は少なく花茎の高さは0.5m以下でした。更に約1ヶ月後には満開になりました。6月下旬に草刈されました。その2週間後(7月11日)に咲き始めました、花茎高さは0.3m以下で花数は少なかったです。その約1ヶ月後(7月26日)には満開になりました。草刈されていない近くの空地の株は、7月末には9割位は種になり、茎は倒れていました。その後8月上旬草刈され、約2週間後咲き始めました、花数は少なかったです。9月中旬頃草刈されました。この後は、葉が繁茂していますが、花茎は出しませんでした。12月上旬でも葉が繁茂していました。1月中旬、大寒の頃には紅葉した葉が多くなり地面を覆うよう

低くなりました。休眠に入ったと思いました。 ・いました。 ・観察日

5月には新しい葉と茎が成長して、 花が咲くと思われます。

写真-1 観察地点 5 月 4 日

観察		経過	花の様子	花茎高	写真
批宗				さ(m)	No
5月	4	観察開始日	咲き始め	0.5~1	1
	17	草刈された後			2
6月	4	草刈後 14 日	咲き始め	~0.5	3
	19	草刈後30日	~満開	~0.5	4
	25	草刈された後			
7月	11	草刈後 17日	咲き始め数本	~0.3	
	26	草刈後 30 日	~満開数本	~0.5	
8月	7	草刈された後			
	21	草刈後 20 日	咲き始め数本	~0.3	5
9月	25	草刈された後			
10月	2	草刈後7日	葉のみ		
	19	草刈後20日	葉のみ		
12月	5		葉のみ		
1月	14		葉が紅葉し		
	14		地面を覆う。		

表 1. 観察記録





写真-3.6月4日 草刈後14日経過



写真-4.6月19日 草刈後30日経過



2. オオキンケイギクに幼虫がいました

2018年5月17日、 公園の法面でオオキン ンケイギクの花茎に幼 虫がいるのを見つけて 写真を撮りました。山吹 色の幼虫でした。名前は 分かりません、ご存知で したら教えてください。

> 八尋学芸員に問い 合わせ回答を頂き ました







ガ類の幼虫に詳しい寺本憲之さんに聞いたところタケカレハの幼虫で間違いないとのことでした。キク科は食べませんので近くにススキ、ササ類、ヨシ類、タケ類などがあり、繭(まゆ)を作る場所を探すのにオオキンケイギクに移動したものと考えられます。





2. 「はしの名前を調べましょう」調査 よもやま話

FRS 井上修一

2018年8月下旬に調査データの一次集計が出てきて、まとめ方についてスタッフで大いに議論を重ねてきました。その中で討議の中心からは外れた項目について個人的な興味を感じた点を調べてみました。フィールドレポーターの調査報告は科学的根拠や数値的根拠などのバックグラウンドを皆で確認しながらまとめ上げていますが、こぼれ話ではそれらの根拠は追求せずに楽しみながらまとめています。

(1)橋の名前「念仏橋」について

ユニークな名前を持った橋の中でも信仰に関係して付けられたと思われるものがあります。それらは分類の定義付けが曖昧でまとめるのが困難として今回は分析対象から外しています。私はその中の「念仏橋」という名前に興味を持ちました。理由としては次の三点です。①「念仏」は仏教のみに関係しているので定義が曖昧ではない、②橋の名前の由来が古い伝承として残っている可能性

が高い、③日本全国に存在し、長い歴史を持っていると思われる。今回の県内調査では高島市の1件しかありませんでしたが、全国の「念仏橋」についてインターネットの検索ページを30ページにわたりチェックして地域名、地図、関連記事を調べてみました。現在も使用されている橋のみに限定すると右表の16箇所が浮かび上がって来ました。その中で橋の名前の由来についての記事があるものは8箇所でした。

Web 上で最も出現頻度が多い橋は大分県中津市山 国町にある観光名所の猿飛千壷峡(さるとびせんこきょう) に架けられた石造りの眼鏡橋です。明治 10 年に木橋として掛けられましたが木橋のために度々流されたようで、昭和3年に現在の石橋に架け替えられたそうです。

住所	河川名
宮城県多賀城市	砂押川
茨城県水戸市	小石川
東京都武蔵村山市	空堀川
横浜市緑区小山町	恩田川
埼玉県さいたま市緑区	芝川
埼玉県越谷市	新方川
愛知県豊川市御津町	白川
三重県員弁群東員町	員弁川
滋賀県高島市	青井川
大阪府南河内郡河南町	梅川
奈良県斑鳩町	竜田川
奈良県天理市東井戸町	布留側
岡山県久米郡久米南町	農業用水路
佐賀県佐賀市久保泉町	巨勢川
大分県中津市山国町	猿飛千壷峡
大分県宇佐市院内町	田所川

参考 www.yado.co.jp/hasi/ooita/yabakei/nenbutuh/nenbutuh.htm

その他の橋は途中で架け替えられたせいか全て現代風であり昔の面影はなさそうです。その他の 名前の由来を簡単に要約すると以下のようになります(個々の橋との対応は紙面の関係で省略しています)。

- 橋を架けてほしいと願う住民達が十年間念仏修行をして橋が架けられた
- 著名な高僧が托鉢のために橋を往来した
- ・橋に近い寺の住職が、橋から落ちて亡くなった人の成仏を願って念仏しながら通行した
- ・橋が欲しいと願う村の若者達が念仏を唱えながら近郊の村々を廻り喜捨を集め建設資金を積立 てた
- 川を挟んで南北地区にある寺院への参詣の便を図るために架けられた

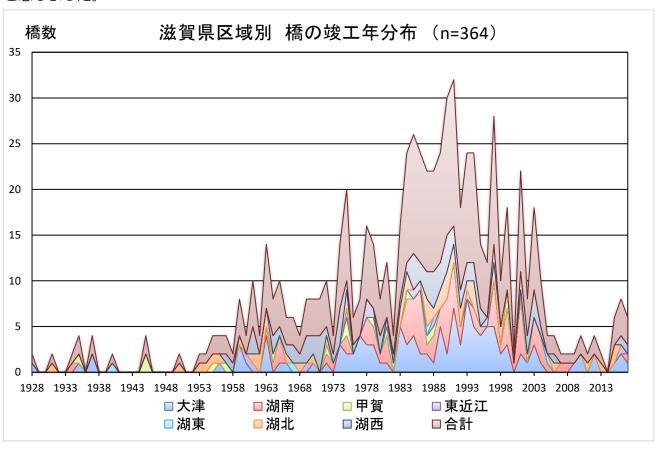
- ・度々流される木の橋を渡るときに思わず念仏を唱えてしまう
- ・ 法然上人の弟子が上人自作の仏像を背負い上人誕生の地に到着した時、あまりの感激に門前の 橋上で念仏を唱え続けた
- 寺の参道に架けられた橋に付けられた

いにしえより橋は生活と密接に関わる重要な施設であり、架設への願い、再建への願い、事故犠牲者への弔い、寺院への往来確保など様々な願い事が念仏を唱える行為と結びついていたのだと思います。

(2) 橋の竣工年比較 ― 滋賀県内区域相互で比較して何かわかる? ―

今回の調査報告では県内の竣工年分布と全国のそれとを比較する形でまとめられた結果、竣工の件数のピーク領域が全国のそれとずれていることがわかり、琵琶湖総合開発の影響と示唆されています。滋賀県は七つの区域が琵琶湖を中心にして点在しており、「区域別の竣工数を比較した場合、その区域の特徴が出てくるのではないか?」という興味が沸き上がり分析してみました。区域の設定は滋賀県が定義している七つの区域と同じにしています。

その結果、各区域のピーク領域は県全体のピーク領域と同じ傾向になり、特定の区域が異なるピーク領域を示すことはありませんでした。これは今回の調査データ数が大津、湖南、湖西の3地域で全体の77%を占めるという偏りを持っているため、3地域の傾向が全体の傾向を支配することになり区域間の比較が難しいことを表しています。将来、再調査を行う機会があれば調査地点の均等化が必要だと痛感しました。その他区域の少ないデータから無理やり推測すると、琵琶湖沿岸から離れた内陸部が多い甲賀、東近江、湖東の各地区は琵琶湖総合開発の影響が小さいのではないかと感じました。



3. はるは白から始まる

投稿 FR 近江心気郎

寒く厳しい冬がようやく峠を超えたと感じられる2月の終りにこの文章を書いています。 今年も琵琶湖に来てくれたカンムリカイツブリを観察し、ドレスアップして行く姿を追いかけています。 2月に入りとても暖かい日がありました。正直なもので日だまりにタンポポも顔を出し始めまし

た。こちらも見て回らねば成りません。結構忙しいです

♡・・カンムリカイツブリ

正月明けから、浜大津からにおの浜、膳所公園の様子を見ています。今年は数が少ないというのが第一印象です。日本野鳥の会滋賀支部発行「におのうみ」には、各年3月号にカ

2005年から2017年からまで見てみると、カンムリカイツブリは増加しているように思えます。 これから大勢顔を出してくれるのを楽しみにして

イツブリの仲間の調査数が掲載されています。



2/24 におの浜2丁目

もう一つ、今年はみんな色白でした。飛来してきた当座はみんな白い感じであるところは去年と同じですが、昨年と違って羽の色変わりや後ろ髪(羽)の整い方に時間がかかっています。2月に入る頃から、カンムリが立派な子や、襟巻きが立派な子が出て来るはずなのに、今年はみんな一律にドレスアップが遅いという感じです。

②・・カンサイタンポポ

います。

2月22日はニャンニャンの日、つまり猫の日だそうです。この日、猫も喜ぶ 15℃という気温に誘われて一気にシロバナタンポポが顔を出しました。場所は名神大津ICから国道 1 号線と合流する本宮交差点の法面。

2日後近江大橋東詰めの下流に位置する、瀬田浄水場の入り口植込みに シロバナが一輪しっかり頭花を開かせていました。

毎年、白花が先に見つかる傾向はことしも同じでした。



2/24 瀬田浄水場

観察目的は黄色在来種です。カンサイタンポポの咲き始めを注意して見て回っています。 大津市内、におの浜や膳所公園の湖岸部は、外来種を含めまだ咲く気配が感じられません。

2月25日朝、ぽかぽか陽気でした。期待をもちつつ、毎年開花の早い膳所の茶臼山に登りました。

在来種と今年の初対面です。日当たりの良い斜面に ぽつぽつと咲いていました。今日花を出したばかりの風 情の中で、花数の多い株も何株か見つけました。

外来種も陽だまりを選んで咲いていますが、此処はカンサイタンポポの勢力圏です。遠慮がちに咲いているようにも見えました。



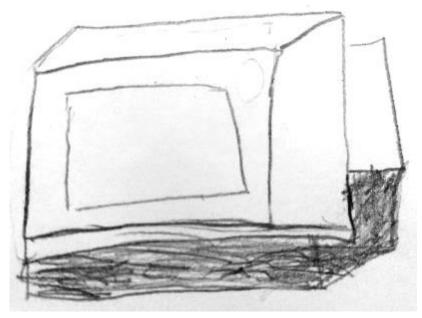
2/25 茶臼山

4. 孫が見るセカイには

投稿 FR まごのて

あなたは図1に描かれている絵を見て、これが何か分かるだろうか。

これはうちの孫が描いた絵である。学校の授業で見た写真に写っていたものを描いてくれたのである。私たちには容易に想像できるだろう。ブラウン管テレビである。しかし、孫はこれを見て、電子レンジだと思ったようである。孫は小さい時からスマホやタブレットが身近にある環境で育っている。タッチパネルのように液晶テレビの画面を触って操作しようとするくらいである。



€ 1 €

技術の進歩によりブラウン管テレビが液晶テレビに代わったように、新たなものに置き換わったり、孫が感じたブラウン管テレビと電子レンジのように同じように見えても全然別のものであったりする。

自然界にも似たようなことがある。ブラックバスやブルーギル、オオキンケイギクをはじめとする外来動植物に置き換わりつつある場所があったり、イタヤカエデとモミジバフウのように形が似ていても異なるものがある。

しかし、このような変化や種は現状を把握できなければ、比較も出来ない。そのため、実際のものを観察し、過去と現在を比較し続けることが大切になる。この作業には手間も時間もかかるため、新しい調査方法も活用し、より広範囲を網羅した豊富なデータが蓄積されていくだろう。これにより、今までの「当たり前」が詳細に把握でき、すこしの変化でも皆で共有できるのではないだろうか。最近の研究では、実際に目の前には見えない生き物さえも環境 DNA の解析で分かることがあるという。これからは、見えないものも「見えるような」調査、研究が進められて行くのだろう。



5. 棚田はいつから

FRS 津田 國史

私はいま棚田に関わることがらで焦っている。

私は高島市の畑地区にある棚田の、オーナー制度初期からのメンバーの一人で、私も仲間も毎年 田植えと稲刈りに参加して、どのグループにも負けないと自負していた。

ところが棚田のそもそもの起源については、誰も知らないということに最近気が付いた。この畑棚田は何時からどういう理由でこの山中の斜面に拓かれたのか。



国土地理院地図・空中写真閲覧サービスより https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1 畑集落は、琵琶湖西岸に在る白髭神社の西北背後にあたる山間に広がっている。

集落の家々は西からの比良山系の峰を背にして、西と北を最高点に、296 号終点のバス停を最下部にした東向き斜面に散在している。この棚田斜面は東西が約 1.6 * 。・標高 300mから 400mに広がる高差 100mの急斜面である。域外と繋がる道路は、北から流れてきた須川と、西からの足谷川の合流点から、川に沿って山間を縫って黒田・鹿ケ瀬に通じ、須川が合流する鴨川の沖積平野を東進すれば市中心部に出る。

私は、棚田は食料増産の掛け声が喧しかった、先の戦時中に開拓が始まったと思っていた。ところがさにあらず。畑棚田の起源は、なんと秀吉時代まで遡れる記録が高島町史にあるのを知った。昭和58年(1983)刊の高島町史に依ると、畑村は享保5年(1720)に80戸461名とある。秀吉の検地に畑地区がすでに記録に現れている。

私達の活動をご存知のO氏から、畑棚田のレポートを求められたのは昨年の夏真っ盛りだった。 O氏は滋賀の農作物を対象に「近江の農耕文化研究会」を主宰しておられ、送られてくる誌面には、 私の知らない近江の農事に関わる事柄が披露されていて驚くことばかりである。今の状況だけでな く、いまはもう全く見られなくなった旧い近江の作物や、それに関連するいろいろが克明に紹介さ れていて、思いもよらなかった近江の農事のあれこれに興味が尽きない誌面である。 かくして私は畑棚田の起源を探っているのである。しかしいまだ的確な情報や参考になる資料に 出会えず、焦っている。

畑棚田は「日本の棚田百選」に指定されたので、観光資源としても充分に認知され、毎年の田植え、稲刈りには遠くから足を運ぶ人や、被写体としてカメラを向ける人も多い。



2008年5月17日 畑棚田の田植え

私たちの先祖は、水稲の栽培には、水利の良い平坦地を求めて適地を開拓したはず。 ならば畑地域に居を定めた先人が、この急斜面を定住の地と決めたのはなにか。現況の報告だけ でなく、できればこれも探ってO氏の希望に応えたいとねがっている。



2018年9月23日 畑棚田の稲刈り

6. 「モミジ (カエデ)」調査 よもやま話

FRS 中野敬二

「そんなの調べてどうするの」「わかってることでしょう」「おもしろいの」という論議が毎度調査テーマの設定、決定時の雰囲気です。すんなり決まることは稀で、毎回期限が迫ってすったもんだのあげく、江州弁で云うところの""まあ、いっかいやってみょうまいか!""{訳・兎に角やってみましょう}でスタートするのが常です。平成30年度2回目調査はモミジ(カエデ)と決定しました。始めるに当たってスタッフの大半は、モミジとは、「春先から秋口までは緑で、赤ちゃんの手のような可愛い形の葉っぱで、晩秋の頃一気に紅葉して山や庭を彩る木」で、共通認識でした。

☆ボーッと生きてるんじゃねーよ☆

最近、巷で流行っていますね。TV のチコちゃんに怒られそうです。

そこでスタッフも勉強しました。それよりレポーターの皆さんはもっと頑張って、色々な処に足を運んでくださり貴重な経験をしてくださったとおもいます。

皆さんの努力を思いつつ私自身の四方山話です。

ぬモミジとカエデの違い

全く基本的な事ですが、モミジとカエデは別の種類の樹と考えていた方は多かったのではないで しょうか。モミジの葉は5枚程度、手のように切れ込みが入ったもの、と思っていた人は多いはず。

調査案内を見た人のほとんどがこんな形がモミジの仲間かとびっくりされた筈です。今までモミジと言っていたのはイロハモミジやオオモミジで、ものすごく沢山あるカエデグループの仲間であったなんて、いつ、誰が決めた事だと考えたのは私だけでしょうか。

ぬカエデ属の決め手に翼果は欠かせない

プロペラを 2 枚組会わせたような形を持つ種(翼果)を持つのがカエデ科の条件。葉っぱの形でわからない、これは何。と判断できない時、 翼果があればかなり有効な判断材料、と調査資料は説明しています。

ところが、これが現場に入ると意外と見つからない。いかにもモミジ と思われる樹に付いていないときは途方にくれたものです。



* * *

ところが、此の翼果が別の意味合いで大いに役立ってくれました。

昨秋行われたびわ博フェスのフィールドレポーターショップのテーマはモミジ(カエデ)であそ





ぼうでした。その中の手作り万華鏡を使って遊ぶコーナーでは翼果が良い働きをしてくれました。

種の形や光の加減にもよりますが、翼果 内の種の周りは微妙な色合いになっている ものがあります。この形と色が万華鏡画像 の重要な引き立て役になり、親子で楽しん でもらえたのは幸いでした。

★モミジは、緑で始まりそして紅葉するばかりでない

新緑のモミジのみずみずしさに心洗われると感想を述べる人は沢山います。普通私たちは春に桜が散って木々が緑に色づく頃からモミジを意識し始めます。芽吹いたときから葉っぱは緑と思っています。ところが、品種改良で色味の変わった園芸種を含め新芽の頃からずっと赤いものもあれば、先ず赤く芽吹いて、その後緑となって最後は紅葉となるものも存在するのです。

☆モミジの花

恥ずかしながらモミジに花があること 自体を知りません。友人に聞くと誰も知 らないと答えました。従って知らなくて 当然と思っていたら、花のあるのは常識 とスタッフは云います。些かショックで した。種があるのは花があるからと改め





て認識した次第。調査期間中の観察は無理でしたが、開花は 4 月頃らしい。春には是非見てみたいものだと思っていました。

幸いな事に調査で見て回ったところは全部近所です。何種かの 見事な木々に遭遇していますのできっと素晴らしい花が見られ ると心待ちしていたところ、2月の終り頃から暖かい日が続いた 為か、芽吹きを始めた樹を1本観察しました。3月になると1 枝だけ主張するように膨らみ、鬱までが顔を見せてくれました。 芽吹きの早い木とそうでない木がありますが、桜とモミジの花見 を3月中に同時体験出来そうなので今から楽しみにしています。



蕾 2019.3.2 茶臼山

・ できず観察で一番のびっくり

今回のモミジ調査は概ね市街地ばっかりでしたので一箇所で多本数の観察したところは少なかったです。その中、三井寺で見たモミジの垣根はさすがにびっくりしました。鬼子母神を祀る僧坊の前にある池の生け垣がモミジで出来ていたのです。当然自然のものでなく庭園師さんや植木職人

さんの傑作だと感じました。

とにかく美しいと感じましたが、そのあ とで、普通見上げるものを同じ高さの目線 で見る不思議さに異様な感じもしました。

さてこのモミジをイロハモミジと報告したところ調査責任者により、枝垂れ品種のほとんどはヤマモミジの園芸種なので、ヤマモミジであろうという判定になりました。担当スタッフの見識に感服致しました。



護法善神堂前、生け垣 2018.12.4 撮影

1月~3月の活動報告

月	В	内 容	参加者	主な議題・活動
	12日(土)	定例会	9名	①橋調査原稿内容確認②カエデ調査中間報
1月				③オオキンケイギク(レポーターだより51号)最終確認
				④掲示板 93 号原稿内容吟味
	19日(土)	定例会	10 名	① オオキンケイギク「レポーターだより51号」発送②掲示板
				93 号発送 ③「橋」調査報告書草稿確認
	2日(土)	定例会	8名	①カエデ調査まとめ進行状態報告 ②「橋」調査(ルポ
2 月				-ターだより)原稿内容最終詰め
2 73	16日(土)	定例会	12 名	①「橋」調査「レポーターだより50号」発送②交流会
				日程と内容決定 ③H31 年度第 1 回調査内容検討
	2日(土)	定例会	7名	① 掲示板94号原稿確認 ②H31年度第1回調査
3 月				内容フリー討議
	17日(日)	定例会	名	①掲示板 94 号発送

H31年 4月~6月の活動予定

	日	時	内 容	場所
4	6日(土)	13:30~17:00	定例会	交流室
月	20日(土)	13:30~17:00	定例会	交流室
5	4日(土)	13:30~17:00	定例会	交流室
月月	18日(土)	10:00~17:00	定例会	交流室
,,,			交流会	生活実験工房
6	1日(土)	13:30~17:00	定例会	交流室
月	15日(土)	13:30~17:00	定例会	交流室

定例会は原則として第1、第3土曜日の13:30~17:00 に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、下記の電話・メールで、琵琶湖博物館フィールドレポーター係までお問い合わせください。

編集後記

平成 30 年度は猛暑に喘ぎ、暴風に翻弄され、 インフルエンザで止めを刺された一年でしたが、 フィールドレポーターの活動には光が差してい





滋賀県立 **琵琶湖博物館** 交流センター 〒525-0001 草津市下物1091 TEL 077-568-4611 (代) FAX 077-568-4550 Email:freporter@biwahaku.jp

ます。私たちの地道な活動が、琵琶湖博物館内に止まらず、国内外の広い分野で注目され、何かと話題になっていると伝わってきて嬉しい限りです。そんな中で、今号はスタッフに一年を振り返ってもらいました。投稿も含め、結構きめの細かいつぶやき、レポートの紙面構成になりました。新たな31年度に向けスタッフー同精一杯頑張りたいと思います。(中野)